

植物の宝庫 藻岩山・円山

藻岩山と円山は札幌のシンボルとも言うていいよな山ですね。毎日登っているという方もいるほど皆さんが慣れ親しんでいるこの山々は、大正10年3月3日にそれぞれ藻岩原始林、円山原始林として北海道で初めて国の天然記念物に指定されました。どちらの山も開拓使時代から保護を受け、現在まで豊かな植物相を残しています。

藻岩山南西斜面は明治時代に数回の山火事で焼けてしまい、戦後はスキー場等として使用されていますが、北東斜面は原始の姿をとどめ、エゾイタヤ、シナノキ、ミズナラなどで構成される冷温帯夏緑広葉樹林に覆われています。284.7haに約400種の高等植物が生育するとされ、特にモイワナズナ、モイワボダイジュ、モイワシャジン、モイワランなど藻岩山にちなむ名前をつけられた植物が多くあります。モイワシャジンの学名は *Adenophora pereskiaefolia* v. *moiwana* (Nakai) Hara で、種小名 *moiwana* は藻岩



モイワナズナ

山に由来した名前であることがうかがえます。しかし、名前の頭に「モイワ」とついていても、藻岩山だけにあるわけではありません。登山道沿いで簡単に見つけられるのはモイワボダイジュくらいです。モイワナズナ(アブラナ科)やモイワシャジン(キキ

ョウ科)は岩場に好んで生え、藻岩山や八剣山、豊平川上流部の岩場に多く生育しているとされ、山に分け入っていかなければ見られない「高嶺の花」なのです。

一方、円山には34.8haに約380種の高等植物が生育するとされています。北斜面には、カツラ林が広がり、見事な巨木を見るこ

とができます。春、葉がでる前に花を咲かせ山が新緑に包まれるころに紅い芽を出すので、どこにカツラがあるのか遠目にもわかるくらいです。初夏、小さいバナナのような形をした果実が地面に落ちていることがあります。がよく見ると落ちている木とそうでない木があります。カツラには雄株と雌株があるのです。秋になれば葉が黄色く色づき、甘い綿菓子のような香りを漂わせます。ハート型の葉が散ってしまう前に、ぜひ香りを「堪能」してみてください。

今年の夏、どこに植物探索に行こうか...と、雪の季節は、緑の季節の計画を着々と練るのも楽しみです。



モイワシャジン

参考図書

- 加藤睦典雄・沼田真・渡辺景隆・畑正憲(1995)『日本の天然記念物』講談社
- 梅沢俊(1994)『北海道山の花図鑑札幌市藻岩・円山・八剣山』北海道新聞社
- 梅沢俊(1982)『北海道山の散歩道』北海タイムス社

特別寄稿 博物館探訪・スミソニアン博物館

スミソニアンメース^{しよくじょう}(職杖)とスミノナイト^{りょう あ えん こう}(菱亜鉛鉱)

北川芳男 (元北海道開拓記念館学芸部長・理学博士)

日本ではなじみがないが、英国などでは、議会議長や市長、大学総長などの職権あるいは職席の象徴として、儀式の際に用いられる杖がある。これは儀式などで本人の前に置かれたり、本人が持ったりするものである。

スミソニアン協会には、「知識・自由・発展」のシンボルとして、「スミソニアン・メース(職杖)」がある。この職杖は長さ80cmくらいの銀製の棒で、その上部に金で作った飾りが、そして頂上部には、<ライオンが前足で金色に輝く太陽を捧げ持っている像>が付けられ、それらの飾りの細部には、ダイヤモンドやルビーなどとともに、スミノナイトが散らされている。頂上部のライオンは、スミソン家の紋章に由来するという。

スミノナイト(菱亜鉛鉱)は、ジェームス・スミソン

が、1802年に発見した亜鉛の炭酸塩鉱物である。彼は、その発見を同年11月18日、ロンドンのロイヤル協会で発表し、1803年の同協会誌に掲載され、学会で話題となった。その後、フランスの鉱物学者、フランソワ・サルティス・ドゥーダンがスミソンの名誉をたたえて、1832年、この鉱物の学名をスミノナイトと命名し、学会に発表した。

スミノナイトの鉱物学的特徴は次の通りである。主成分は炭酸亜鉛($ZnCO_3$)で、副成分として鉄、マグネシウム、マンガン、カルシウム、銅、コバルトなどを含む。色は含まれている微量成分によって異なる。たとえば、コバルトが多いとピンク系の色合いに、銅が含まれるとブルー系かグリーン系になる。そのほか、結晶系は三方晶系で、生成条件がよいと、きれいな菱面体の結晶をつくるが、通常はブドウ状あるいは鍾乳状の集合体で産出する。特定の結晶面に平行に割れ、三方向に平坦な面を作る。硬度は4~4.5、比重は4.4である。スミノナイトは、亜鉛の鉱石鉱物の一種である閃亜鉛鉱(ZnS)の酸化で生成された二次的鉱石鉱物である。わが国では、岐阜県の神岡鉱山のような接触交代型の鉱床に少量産出するが、鉱脈方の亜鉛鉱床中では産出例は少ない。地球規模で見ると、熱帯や砂漠地方では、ほかの亜鉛二次鉱物とともに大きな鉱床を造っている。スミソニアン国立自然史博物館には、ギリシャ産のピンク系の美しい菱面体結晶の標本や南西アフリカのナミビア産のブルーやグリーン系のブドウ状集合体の標本などが収蔵されている。



スミソニアン・メース(職杖) 左
スミノナイト(菱亜鉛鉱) 下





札幌周辺の昆虫・植物標本を集めた「札幌コレクション」

博物館活動センター OPEN!

きたアンモナイトから読みとった太古の自然環境について、会員の方々の話に聞き入っている方、会員の方をうならせるような鋭い質問をする小学生。来館した皆さんもそれぞれにロマンを感じていただけましたようです。

平成13年11月22日(いい夫婦の日)に誕生。

約6ヶ月間の改修工事を経て、ついに開館!すでに来てくださった方も多くいらっしゃるかと思います。22日には大通小学校の5・6年生をご招待。開くジオラマ展示に「おお~!」という喚声があがりました。そのほか、狭いスペースを生かした展示の仕掛けがたくさん。自分で手を動かしてみると、さらに印象が強くなりますよね。カバーのない展示資料は全て触れるので、どんどん指紋をつけて、本物の感触を味わってください。



古沢学芸員、大通小の皆さんに熱のこもった解説

アンモナイトに釘づけ...

ミュージアム・ギャラリーでは、第1回企画展として札幌自然史研究会の皆さんによる『アンモナイトは“語る”』が催されました。一億年も前に生

ミュージアム・サロンのメンバーによるアンケート調査開始。

サロンの活動の1つとして、アンケート調査が始まりました。目的は皆さんの望む博物館像を調べることに。サロンメンバーで考えたいいくつかの質問を用意し、展示を見終えた来館者にインタビュー形式で回答をお願いしています。率直な生の声をお聞きすると、見落としていた点や小中学生ならではの意見などに気づかされ、大変参考になっています。

今後も調査を続け、皆さんにとって活用しやすい博物館づくりに生かしていこうと思っています。展示室で見かけたときには、ご協力をお願いします。(サロンメンバーより)



なごやかな雰囲気の中で、本音を引き出します

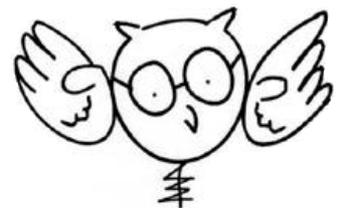
マスコットキャラクター愛称は!?

来館した皆さんからご応募いただいた63点の中から、活動センター職員とミュージアム・サロンメンバーの選考の結果、3点を厳選。さらにサロンで投票をしたのですが、「ぼむ」と「ミュージク」のせり合いに...。そこで、来館者の方々も一緒にセンターの「かんばんフクロウ」にピッタリの名前を選んでもらおう!ということになりました。3月30日(土)まで展示室に投票用

紙を置いているので、ぜひ愛称選びに参加してください。

実は、リンクージュプラザの建物

の看板にチョコンとついているのに気がついた方いるでしょうか?名前がつく前から飛び回っているのです。



吾輩が“かんばんフクロウ”!

ふしぎ体験・雪と氷の世界

第2回 iミュージアム企画展「ふしぎ体験・雪と氷の世界」(平成14年1月26日～3月30日)を開催しています。なぜ雪の結晶は六角形なの?雪と氷ってどこが違うの?いろんな疑問を解決。はたまた自分の息がダイヤモンドダストに変化したり、水が一瞬で凍ったり…。雪と氷のふしぎな現象を展示室内でいざ、体験!

1月26日(土)には博物館講座「人工雪をつくらう」が開催されました。ドライアイスでマイナス10数にまで冷やされたペットボトルの中をみるうちに雪の結晶が開きました。雪の結晶の成長を息を殺して見守った後は、瞬間的に水を凍らせる過冷却実験。「すご～い!」という歓声があちこちで起こりました。講師の平松和彦先生の話

題盛りたくさんのお話により、みんな聞き入っていました。



大きな雪の結晶ができたよ!

その他の関連事業

雪道さんぽ 3月9日(土) 午前10時～12時

会場：円山公園(現地集合)

講師：札幌市博物館活動センター学芸員 山崎真実

対象：小学1年生～中学3年生(小学3年生以下は保護者同伴をお願いします。)

持ち物・服装：メモ帳、筆記具(鉛筆)、水筒(温かい飲み物)、寒くない服装、長靴、靴カバー

申込方法：申込ハガキまたはファクスに行事名・郵便番号・住所・氏名・年齢(学年)・電話番号・FAX番号を記入し、2月28日(木)(必着)までに下記申込先へ。

申込先・詳細：博物館活動センター 〒060-0001 中央区北1条西9丁目リンケージプラザ内
(TEL 200-5002 FAX 200-5003)



編集後記

活動センターでは第2回企画展が始まりました。展示準備を通して雪を見る目がちょっと変わりました。空から降ってくる雪の結晶という小さな氷に閉じこめられた手紙。それを少しでも読みとれたら...と思うと、雪が待ち遠しくなりますよ。もうすぐ冬が終わろうとしています。雪と氷はとけても、ふしぎな世界はつきません。(マ)